

Mizuho Bangkok Daily Market Report

MIZUHO

Dated of 2023/08/03

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.49	0.16
JPY/THB	0.2407	0.0012
USD/JPY	143.32	-0.02
EUR/THB	37.73	0.02
EUR/USD	1.0938	-0.0046
USD/CNH	7.201	0.015
SGD/THB	25.72	0.02
AUD/THB	22.56	-0.17
USD/INR	82.59	0.33
USD Index	102.59	0.29

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,937.4	-3.3
WTI (Oil)	79.49	-1.88
Copper	8,509.5	-121.5

Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,550.28	-5.78
NIKKEI (JP)	32,707.69	-768.89
DOW (US)	35,282.52	-348.16
S&P500 (US)	4,513.39	-63.34
SHCOMP (CN)	3,261.69	-29.26
DAX(GER)	16,020.02	-220.38

Bond

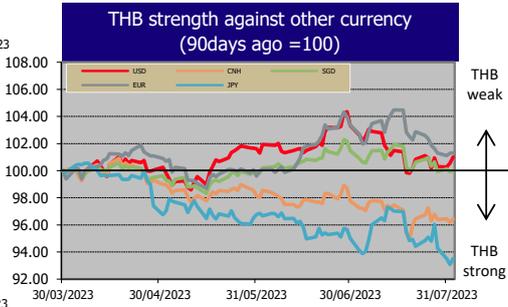
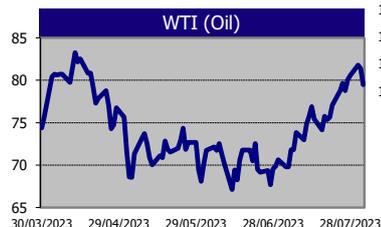
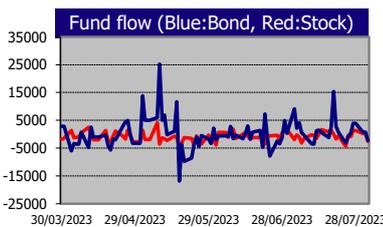
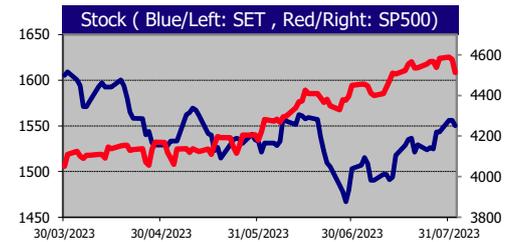
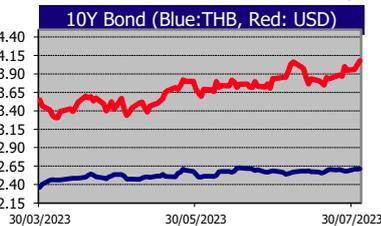
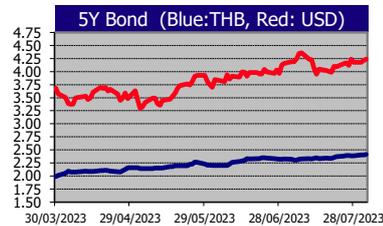
	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.413	0.009
10Y (THB)	2.613	0.003
5Y (USD)	4.237	0.021
10Y (USD)	4.078	0.055

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(2,500)	-2718.3
Bond net flow	(2,215)	-2927.1

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

●昨日のドルパーツは上昇。34パーツ台半ば付近で取引を開始。格付会社フィッチが米国の格付を引き下げたことを受け、多くのアジア通貨のセンチメントが悪化し、ドルに対し軟調な推移を見せる中、ドルパーツも上昇する場面を見せた。バンコク時間午後に入り、タイ中銀(BOT)による金融政策決定会合(MPC)では市場予想通り25bpの利上げが決定され、声明文では「段階的かつ慎重な」金融政策正常化に係る文言が取り下げられる等、声明文のトーンが変わっていることが確認されたものの、為替相場への影響は軽微なものに。ただ、その後タイ国内政治についてタイ貢献党が前進黨を連立政権から外し、新政権の発足を目指す方針との報道に早期政権樹立による政治先行不透明感払拭期待からかパーツ高が進行。一時34パーツ台前半を付けた。その後、海外時間に入り、米7月ADP雇用統計が市場予想を大幅に上回っていることが確認されると、ドル買い優勢の展開となり、ドルパーツは反転。34パーツ台半ばまで値を戻し、そのまま34.49レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

●昨日のドル円は横這いでの推移。142円台後半でスタートしたドル円は、東京仲値にかけて実需のドル買い強まる中、早々に143円台を回復。ただ、上昇が一服すると、軟調な推移を見せていた日経平均株価がバンコク時間正午にかけてさらに下げ幅を拡大させる動きに反落。一時142円台前半を付けた。海外時間に入り、米国労働指標が強い結果であることが確認されるとドル円は反転上昇。一時143円台半ば付近まで上昇するも同水準で勢いは一服。そのまま143.32レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

昨日はタイ中銀が25bpの追加利上げを全会一致で決定したが、市場の事前予想通りであり、パーツ相場への影響は限定的だった。他方ドル円に目を向けると足許複雑な値動きを見せている。先週日銀が政策修正に踏み切り円金利が中長期を中心に上昇する中においても、緩和自体は継続と捉えた向きによる円売りが優勢かと思えば、1日格付け会社大手のフィッチが米国債の格下げを発表したことで今度は米金利が上昇するも、同時に株が売られる中で為替市場ではドル売りが一部見られるなど、非常にわかりにくい展開が続く。米国債の格下げは2011年にも例があり、当時は市場のリスク回避姿勢が強まったことでその後米金利は急低下した。足許不安定な日米金利市場の動向は注視しておきたい。なお、本日タイ国内では、前進黨のビター党首による2度目の立候補を国会が否決したことを巡る国会の憲法違反疑惑の申し立てについて憲法裁判が受理・非受理を決定するほか、タイ貢献党が前進黨を除いた新たな連立の枠組みを発表するとの報道がある。タイにおける政治的空白が長期化することとなるのかを見極める上で注目が集まる。(吉田)